

## ボロボロの紙

小さい頃好きだったお母ちゃん

僕には本当のお母ちゃんがいる

ある日僕はお金を使い切ってしまった

そこでお母ちゃんがないとき

かばんの中からお金をとろうとした

財布を開けて一万円札を抜いたとき

古い一枚の紙切れが入っているのに気づいた

そつと一万円札と一緒に抜くと・・・

そこには小さい頃あげたカタタキ券があった

記憶の引き出しを開けながら

まだ使わずもっていたんだと思い

僕は久しぶりに泣いてしまった

泣きながら一万円札と一緒に財布に戻した

大切にされていると確認した僕はその後

さりげなくお母ちゃんの肩をмонで言った

お母ちゃんありがとう

僕は盗みをしなかった

これもお母ちゃんの力なのかな